

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600656	事業の開始年月日	平成16年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人社団 ピーエムエー		
事業所名	グループホーム ソフィアいずみ		
所在地	(〒245-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町6-4-18-19		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年7月15日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1) ソフィアいずみのキーワードは『自己実現』です。大げさなことでなく、煮物の味付けやお花の生け方、洗濯物のたたみ方——その一つひとつが重ねた人生経験やご自分らしさの“表現”。安らぎの家とは、長年共通する習慣、感受性を育ててきた馴染みの土地で、互いの自分らしさを受け入れ合う穏やかな人間関係であると考えます。2) 暮らしの追求がテーマ。気晴らしも大切！ただ、些細な事でも人の役に立てる、(少しの手助けがあれば…)自分で生活できる、という土台の上で話です。生活の主体者として生き生きと働く以上のリハビリはないでしょう。料理や洗濯など暮らしのあれこれ長期記憶の活性化につながりますが、何より自分達の手でわずかずつつも生活を心豊かに、そして互いの絆を深めていくゴールのない日々の取り組みの中にこそ喜びがあります。3) 運営は安心の医療法人。ソフィアいずみは医療法人社団ピーエムエーが運営します。グループのクリニック、老健施設が協力してサポート。4) より良い暮らしに向け「ソフィアいずみ・ケア・プライオリティ(介護の優先順位)」を定めました。①安全②信頼③いまの入居者の世界④私も楽しい⑤効率——を大切にお付き合いして参ります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和5年10月26日	評価機関 評価決定日	令和5年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>事業所は、相模鉄道いずみ野線いずみ野駅南口から徒歩10分程の場所に位置している。事業所の周辺には畑が点在し、緑豊かな田園風景が広がっている。建物は軽量鉄骨造り2階建て各階に1ユニットずつ配置されている。庭の花壇では、季節の花を、菜園では、利用者が種まきや苗の植え付けた野菜を育てている。皆で収穫した新鮮な野菜を調理し、食している。</p>
【地域との繋がりを大切に】 <p>事業所の防災訓練への隣接住民が参加したり、正月のどんど焼きや夏の神社の例大祭等の地域行事に利用者が参加するなど、強いつながりがある。日常では、散歩時に野菜やお花を分けてもらう等、交流している。年4回発行の「ソフィアいずみ通信」には、必ず地域の方々に向けた健康情報等を掲載して、自治会で回覧してもらっている。</p>
【日常的な散歩への取り組み】 <p>毎日の生活の一部として、積極的に散歩を行っており、職員が付き添いながら事業所近隣を20～30分程、歩いている。雨の日にも傘を差しながら出かける方もいる。脚力が落ちて散歩が難しくなった方は、庭で外気浴をしながら季節の花を眺めたり、菜園の野菜の成長を観察して自然の移り変わりを感じている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム ソフィアいずみ
ユニット名	あやめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己実現と社会的つながりを重視した理念を示す。また、「ソフィアいずみ・ケア・プライオリティ」を作成し、介護の優先順位として①安全②信頼③いまの入居者の世界④私も楽しい⑤効率——の諸要素と優先度を共有する。	「自己実現」を理念とし、「ソフィアいずみ・ケア・プライオリティ」で介護の優先順位を定めて実践している。新任職員には採用時に理念を説明し、日々のケア実践を通して浸透させている。認知症の症状である記憶の逆行性を踏まえた「いまの利用者の世界」を大切にしており、家族の了解の下、適宜呼び名を変更するなどして利用者との信頼関係を築いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昔ながらのコミュニティが生きた地域に立地。日本人が大切にしてきた習俗・習慣が暮らしに引き継がれ、お祭りや体育祭、どんど焼き等行事への参加、散歩の折などの交流等を通じ、つながりを深める。令和2年より地域・自治会の行事等はコロナ禍のため中止。R5年1月はどんど焼きが実施され、入居者代表2名が参加。4月の自治会総会には管理者参加。	自治会に加入し、年4回の「ソフィアいずみ通信」に地域の方向けの健康情報を掲載して自治会の回覧板に折込んでいる。Instagramに利用者や事業所の様子を投稿し情報発信している。正月のどんど焼きや夏の神社の例大祭に利用者数名が参加した。散歩時には野菜やお花を分けってもらったり、犬を触らせてもらったりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム通信（自治会回覧）を通じた健康情報の提供、過去に横浜市認知症対応型サービス事業開設者研修、認知症介護実践研修、横浜市認知症特化型生活・介護支援サポーター養成事業の実習受け入れ協力。また、運営推進会議や家族会時など折に触れ近隣、ご家族へ認知症の関りを啓蒙。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際等へのご意見に加え、自治会より地域と施設の積極的なつながり提案を頂く。会議では行事や地元情報のほか、地域との多様な関りのための助言も。又地域の方々の認知症のご家族への関わりやコミュニティとお付き合いの中に、ケアの向上のモデルを見出す（作業はできなくても朝畑に出て近隣の方に挨拶するだけでも表情が輝いた 等）。	運営推進会議のメンバーは自治会長、自治会副会長、泉区高齢障害支援課課長、いずみ野地域ケアプラザ主任ケアマネジャー、利用者、家族、事業所職員である。2ヶ月ごとに開催の会議は、コロナ禍では書面開催としていた。事前にメンバーへ報告書を送付して意見等をもらい、集約して出席者にフィードバックしていた。今年度8月からは対面での開催を再開した。報告書は役所に提出している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	泉区認知症高齢者グループホーム連絡会で情報交換・交流。運営推進会議への区担当者の出席を通じ（令和2年度～書面開催）、事業所や介護現場の実情を伝え、助言やご意見を頂く。また消防訓練に当たっては消防・予防課より指導・支援を頂く。	泉区高齢障害支援課に運営推進会議報告書を提出している。運営推進会議の中でメンバーである泉区高齢障害支援課課長より意見や情報を伺っている。横浜市介護事業指導課に事故報告書を提出している。泉区認知症高齢者グループホーム連絡会に加入し、情報交換をしていた。生活保護費受給者の受け入れ体制があり、区の担当部門と連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時のオリエンテーション及び年に2度の施設内研修において、拘束の弊害や「切迫・非代替・一時」の3原則の周知を図る。H20年9月より玄関の施錠を開始。翌21年3月の家族会で報告。見守り容易な勝手口（非常口）は自由な出入り継続。また、ご自身で開錠可能な方は玄関の出入りも自由。お好きな時に庭仕事や花摘みへ。	「身体的拘束廃止委員会」を3ヶ月に一度開催し、取り組み及び研修の日程や内容について検討している。身体拘束の研修は年2回実施している。玄関は施錠しているが、非常口は施錠していないので、利用者は非常口から自由に入出入りしている。最近、入居した利用者が、夜間、居室の窓から外に出たことがあったため、ご家族の希望で夜間のみその窓を施錠している。帰宅願望の強い方には、気持ちが落ち着くまで、職員と一緒に付き添って外に出ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年4/1～7/15の間で高齢者虐待防止研修を実施。虐待の定義、通報義務、不適切なケアと虐待の関係などを学ぶ。また、年に一度の虐待防止一斉点検で課題抽出に努める。	虐待防止のための指針は作成しているが、「虐待防止のための委員会」や責任者選任については現在準備中である。行政からの指導で、年1回、虐待に関する研修として「高齢者施設に係る虐待防止一斉点検」を実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和4年度は6月に成年後見制度の基礎に関する内部研修を実施。またケアマネの研修、自治体の広報活動等を通じ、学ぶ機会を持つ。必要に応じ行政窓口等と相談、調整などを行う。現在、ご親族以外の方が成年後見をお務め頂いている入居者はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約に当たっては、理解や解釈の困難な語句、事柄の平易な説明を心掛け、極力疑問や不安のないように努めています。また報酬改定時など、理由、内容を記したご案内文章を皆様にお送りしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年度末に家族会とアンケート調査を実施する。運営やケア、看取り等に関してのご意見・ご要望を頂く。R5年もコロナ禍のため前年に続きアンケート調査のみを実施。アンケートの集計結果は5月にごご家族へ郵送し、また施設内で閲覧可能な状態として公表する。	コロナ禍で中断している家族会の代わりに「アンケート」を実施した。集計結果は、家族にお知らせし、職員には、事業所内にファイルに綴って、閲覧・共有している。家族との面会は、時間や回数を制限したうえで、玄関もしくは窓越しで実施している。利用者の希望で菜園を整備した。利用者1名が自身で育てたジャガイモを使って「くず芋の甘味噌絡め」を作り、利用者や職員にふるまった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議及び目安ノートで職員の意見、提案の聴取、検討に加え、運営や業務などに関する職員アンケート及び個別面談を毎年5～6月に実施。また、令和元年度より法人の方針発表会を開催。法人全体として経営・運営方針や理念の共有、職員の意見発表も行える場を設けた。令和2年度以降、コロナ禍のため中止を継続。	「全体会議」は年2回実施している。「目安ノート」を置き、全体会議で取り上げてもらいたい意見や提案ができる。ご家族アンケート結果の振り返りをした際に、会議の中で職員から「生活面でのポジティブな内容もご家族に伝えた方が良い」という意見があり、面談等の機会を捉えて伝えるようにした。個別面談で、管理者は、職員の希望や思い、勤務条件や運営に関する要望等を聞いている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意欲と前向きな精神態度に留意し、自主性を尊重した配慮、対応に努める。また事務長管理者会議、理事会を通じ、職員の給与や勤務状況、職場環境等を把握して検討し、改善に努めている。なお令和5年1月に法人内の全事業所で“組織の健康診断”を実施。労働負荷、処遇、仕事の裁量性など7分野について職員の就業環境を精査する。	「職員アンケート」や個別面談を毎年実施し、希望等を確認している。「ストレスチェック」を実施し、社会保険労務士に分析を依頼した結果をフィードバックしてもらっている。法人全体で、就業環境精査のために「組織の健康診断」を実施した。職員の健康診断は年1回（夜勤者は2回）実施している。定年は65歳で、契約更新制度がある。10年ごとに永年勤続表彰がある。育児休暇及び介護休職の制度がある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業規則の中に「人格、知識並びに技能を高めるため、業務の許す限り研修を行うものとする」と定める。代表者は資格取得やスキルアップを奨励し、研修会などへ参加しやすい環境づくりに注力。	新任職員向け研修は、事業所毎に行っている。内部研修はテーマを設定し、職員がそれぞれ担当講師となって実施している。外部研修に参加する場合には、費用や交通費は法人が負担しているが、昨年度は参加者がいなかった。出勤扱い、受講料事業所負担等の資格取得支援制度がある。介護福祉士を取得することで資格手当が支給される。	職員が個別に講師を務めるなど、活発に内部研修を実施しています。加えて、外部研修も受講し、そこで得られる新鮮な情報をフィードバックすることで、職員の見識が深まり、事業所の活動が更に発展していくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本認知症グループホーム協会（GH協）、横浜高齢者GH連絡会、泉区認知症高齢者GH連絡会のほか、防災については泉区社会福祉施設等防災連絡協議会に加入。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見当識の揺らぎに加え、記憶を介して周囲の環境とつながることが困難な認知症の方は、不安が支配的な情動と言われます。また、環境変化に弱く、ご入居時は大きなストレスにさらされます。このため、事前のアセスメント調査で出来る限りお心の中の理解に努め、ご入居後も言動を注視しながら対応して参ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ずはご家族が一番苦慮されている点をお尋ねし、理解・共有した上で入居のお話を進めるようにしています。ご家族の思いを真摯に受け止めながら、事業所と一緒にご本人を真ん中に置いた望ましい関係を模索してまいります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際など、望む暮らしの姿やご本人のご状態、ご家族のご意向や介護力などを勘案し、他に適したサービスがあればご提案、ご紹介しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材切り、盛りつけ、食器洗い・拭き、洗濯物干し・たたみ等々一。家事などの生活参加を通じ、ご本人の持てる力と生き生きとした心の動きを極力引き出すことで、一方的な関係に陥らず、暮らしをともに作っていく間柄を築きます。また、職場は人間形成の場でもあり、入居者に支えられつつ職員も共棲していることを自覚することがGHケアの要諦と考えます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間や場所とのつながり感が薄れ、記憶を介して環境とつながることが困難になくなった認知症の方にとって、長年暮らしを共にしてきたご家族との絆は最大のつながりです。ご家族は最も重要なケアの戦力と位置付けています。また、外出行事の同行介助や雑巾縫い、庭の除草などのボランティア参加をお願いさせていただきました（コロナ禍のため休止）。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚とお付き合い、身内の法要やお祝い事などに継続参加できるように支援（同行者、訪問者へ関りのポイント説明や、散歩による筋力維持）しています。馴染みの方のご訪問を職員一同歓迎しています。一方、時間や場所とのつながり感が希薄な方には、初詣や夏祭り等の年中行事やしきたりを重視した暮らしを提供することで、馴染みの場を再現しています。	知人・友人の面会時にも、家族と同様に時間を制限している。20年来の理美容を担当する有償ボランティアが、継続してヘアカットに訪れている。「数独パズル」を続ける方や、新聞購読をされる方等、生活習慣の継続を支援している。利用者の嗜好継続のために、コーヒーやビールの提供、テレビドラマの視聴等を支援している。毎年春に夏野菜やサツマイモの苗を植え付けており、近く「芋掘り」の実施を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いくつになっても人間関係を築き、育てる意欲と力は生きがいに直結していると認識。互いに助け合いながらの家事などの協働、相互理解や親交を深めるため、思いを押し量って言葉を補うなどの人間関係の橋渡しなどに努めています。ホスピタリティを職員だけが独占するのではなく、自然なコミュニティのあるべき姿として、入居者相互の思いやりを支援。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えでは次施設へケアのポイント等を伝達。在宅復帰者にはホームをお出かけ先の一つとして提案。年賀状のやり取りなどを通じ、退居者・入居者双方の社会性維持を図る。以前他界された入居者のミニ法要を営むことも。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	まずは入居時のアセスメント調査や日々の観察・記録を通じ思いの把握に努めます。中でも「働き者でしっかり者の母」など、その方の構成する世界の中核にある自己イメージの検討は丁寧に実施。また病期に応じご本人のニーズも変化しますが、不安が支配的な情動となりやすい事を念頭に“つながり”を切り口とした本人本位の関わりを大切にしています。	家族に向けた介護計画の説明や情報交換時、利用者の思いや昔からのお話を聞いたり、家族アンケートを実施して、利用者の意向を把握している。担当職員と計画作成者が行うモニタリングの中で、各利用者の持っている「自己イメージ」に着目して、思いや意向を把握している。入浴を好まない方には、入浴回数を調整したり、入室を不快に感じる方には、掃除の回数を減らす等の対応をしている。意思疎通が難しい方には、問題行動の原因を推察し、解決につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご生活歴、サービスに至るまでの経過については、可能な限り詳細に把握させて頂くようにしています。ご入居後もご家族の皆様との親密な交流を通じ、折に触れご本人への理解や共感、意欲の向上につながる手掛かり情報の把握を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や健康状態、お気持ち等を観察・記録して申し送ることで、日々の関わりをブラッシュアップ。3カ月に一度のケース会議では長期的に再評価し、「お洗濯物は畳めても仕分けは困難」「途中で拭いた食器とこれからの物の区別が混乱」など、現状の能力を評価し、何が不安につながるか、逆にどんな行為や関わりに心が満たされたかを検討。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症の病期（ステージ）に応じ、その時々のご本人のご意向や思い、ご家族のお考えやご生活歴などの情報、医師・看護師の指導や助言、認知症の方の特性などを踏まえながら、その時々のご状態に即した入居者主体のケアプラン作成に注力。	入所時アセスメントで把握し、初期介護計画を作成する。その後、2週間後及び1ヶ月後に再作成、3ヶ月後に修正している。以降は、短期3ヶ月、長期6ヶ月から1年で見直している。介護計画作成時は、かかりつけ医師や看護師の意見、利用者・家族の意向を反映させている。介護計画の実施状況は、利用者毎にモニタリングとケース記録を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の詳細なご様子は「ケース記録」に記入し、気づきやケアの新たなアプローチ、実践の結果などの特記事項を「介護日誌」や「申し送りノート」に記載して伝達。情報を共有して日々の実践やケアプランの見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のクリニック看護師による日常のきめ細かい健康管理、医療ニーズが発生した際のスムーズで適切な対応等により、可能な限り入院等の環境の変化を避け、ホームでの生活を維持して頂ける体制をとる。他に入退院時の送迎や情報提供、通院介助、買い物同行などの外出支援も。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、運動会や夏祭りなど自治会行事への積極参加、泉消防署との消防訓練を通じた消防管理上の基礎知識や技術習得のための取り組みなど行う。基本的にコロナ禍のためホーム行事、自治会活動とも自粛継続も令和5年1月には地域の神社のどんど焼きに参加。地域行事は、希薄化した見当識、他者とのつながり感を補完する上で非常に重要。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本としますが、ご同意頂ける場合、より円滑かつ迅速な医療対応のため、ホームの協力医療機関であるソフィア横浜クリニックの医師をかかりつけ医として頂いています。同様に同意に基づき同医師による訪問診療を受けて頂いています。	法人の協力医療機関をかかりつけ医（内科）にすることに同意を得て、全員が訪問診療を受けている。訪問時には薬剤師が同行し服薬管理を行っている。看護師が、24時間オンコール体制で健康管理している。その他の専門科を受診する際は、家族が付き添っているが、送迎については事業所職員が支援している。口腔ケアは職員が対応している。外部受診の結果は、「ケース記録」に記録している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内のクリニック看護師は定期訪問や介護職員との情報交換により、単に健康状態を把握しているだけでなく、相談に乗る（訴えの傾聴）等を通じて入居者と緊密な関係を築き、さらに日々の暮らしぶりを知ることで、よりきめ細かな健康管理につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平常時のバイタルサイン、日常生活動作能力やBPSDのご状態、ホームで可能な医療活用等の情報を提供（文書の場合も）し、経過や入院中のご状態について話し合うことで、ご本人が混乱なく病院で過せ早期退院が可能になるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針や支援のあり方は、段階毎にご意向を確認。また毎年ご家族アンケートで看取りについて、その時のお考えをお尋ねしている。終末期には事業所単体ではなく、法人内の診療所や老健を含めた総合力で対応。	看取りの方針を「重要事項説明書」と「看取りの指針」で家族に説明し、同意と理解を得ている。医師が看取り期と診断した時は、関係者相談の上で、医師から家族に説明し、「看取り介護計画書」に同意のサインをもらっている。5月に「看取りマニュアル」を基に研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	秋の消防訓練時などに蘇生法の訓練を行うほか、応急手当や確実な初期対応を行うため、救急時のチェック表を活用。また、採用時に緊急時対応マニュアルや救急法、救急時チェックなどを指導。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H22年より近隣の方に消防訓練（年2回）へご参加頂く。また地域の社会福祉施設の防災連絡協議会に参加。コンサルの指導で大地震対応マニュアル整備。H27年の水防法改正で当施設はH30年1月より「想定し得る最大規模の降雨」の際の洪水浸水対象区域に敷地の一部が入り、災害対策計画を作成。R5年も4月水害対策訓練、5月地域連携消防訓練（夜間想定）を実施。	5月に地域合同連携消防訓練（夜間火災想定）を消防署の協力の下に実施した。2名の近隣住民の参加を得て、誘導と見守りの役割を引き受けてもらった。次期自主訓練（昼間想定）は11月に実施予定である。ハザードマップ上の床下浸水地域にあたるため、泉区総務課の指導もあり4月に水害対策訓練として垂直避難訓練を実施した。災害備蓄は、飲料水と食料を4～5日分の他、防災備品類を備えている。地震対策として、家具に、転倒防止策を施し、ガラス飛散防止フィルムを貼っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	活き活きと心を動かすため、自尊心や人格の尊重はケアの前提と考えます。何を大事にして来られたかを理解し、“今の入居者の世界”を大切にして、細やかな思いやりにつなげます。介護する側・される側でなく、平等な共棲関係が基本。また職員採用時に個人情報保護に関する指導、誓約を行い、毎年研修を実施しています。令和5年度は6月に研修実施。	職員には「個人情報保護」に関する指導を行い、誓約書を提出させている。「プライバシー研修」は6月に実施している。利用者の呼称は、親しい関係性や共通の世界を大切にするため、「さん」付けと「ちゃん」付けを利用者別に使い分けている。居室に立ち入る際には、利用者に許可を取っている。個人情報に関わる書類や保険証等は、ドアを施錠できるスタッフルームで保管している。パソコンやタブレットは、パスワードを設定して個人情報を保護している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解しやすい説明や、気持ちが届くまで待つなどの対応を重視し、自己決定の背景となる様々な機会提供にも注力。例え発語が失われても、頷いて頂いたり表情や仕草などから意向を読み取ることの大切さを深く認識しています。さらに、入居者の動きを時間をかけて読み解き、何をしたいかわかりと意図を見極めることも思いの表出や自己決定の支援の一つと考えます。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由で制約のない暮らしを通じ、日々のささやかな喜びや意欲の芽を育てることが、長い目で見た時に健康でその人らしい暮らしの実現につながると考えます。当ホームのケアの優先順位においても①安全②信頼に次ぐ高い優先度に「今の入居者の世界」を位置付けています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どこにどんな衣類がしまっているか、つい忘れがちですが、必要な方には職員と一緒にその人らしい装いを支援します。また隔月で馴染みの美容師が訪問。お出掛け支援や地域交流など、積極的な他者と関りも、お気持ちの上でのお洒落支援と考えます。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養価や嗜好を基に週6日は栄養士がメニュー作成。ただし月曜のメニューは皆で考えます（「明日何を食べたい？」）。調理・盛り付け・後片付けは能力に応じて皆で。ご自身の判断で調理を進められる方もいれば、少し手順を示唆されれば問題ない方、切ったり剥いたり食器を拭いたりと部分的な作業ならお手の物な方も居られます。職員も食卓を囲みます。	栄養士が作成したメニューに沿った食材が、業者から2日おきに搬入されている。利用者と職員と一緒に調理している。配膳や盛り付け、片付け、食器洗い等も一緒に行っている。月曜日のメニューは職員と利用者が相談して決めている。庭の菜園で採れた野菜を積極的に使用している。行事食は、正月、節分、雛祭り、端午の節句等には行事食を提供している。敬老の日とクリスマスには寿司を購入して皆で食べる等、食事を楽しむ支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスのとれたメニューを作成し、食事毎に主食と副食に分けて摂取量を把握。必要に応じ代替の食事形態（粥食や軟菜など）・メニューの提供等を実施。水分摂取の少ない方は個別の摂取表に基づき対応。またお腹が空かせて頂くため、心身の活動性の高い暮らしに注力。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した方には歯磨き習慣の維持のためのお声掛けを、必要な方には仕上げ磨きのお手伝いやブラッシング介助を、義歯の方も夜間のお預かり、洗浄・殺菌など、お一人おひとりの力に応じた援助を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	原因が尿意の希薄化なのか、トイレまで間に合わない等の動作の制限によるものなのか、お一人おひとり課題を抽出して支えています。また、必要な方には水分摂取、排泄のリズムを把握するための表を活用します。安易にオムツを使わず、長年身に着け安心できる布パンツの装着感、変わらぬ自分を大切にしています。	トイレ誘導が必要な方(4名)のみ「排泄チェック表」を用いて対応している。利用者は、入居時、すぐに布パンツに変更し、その後は、全員が布パンツにパッドを併用している。夜間は、トイレ誘導をしたり、睡眠優先のため夜用パッドを使用したり、利用者に合わせて支援をしている。2名の利用者については転倒防止や排泄介助のため、ベッドの手すりに鈴をつけて夜間の離床を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事メニュー、排便間隔、生活リズムの乱れの有無、食事摂取の量や内容、水分摂取量、体調や運動量、薬の副作用など排便に影響を及ぼす要因を個別に検討。また日々の散歩、家事などの生活参加を励行し、朝食後のトイレを日課として頂く提案など行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	人員の制約から全ての方が毎日入れる訳ではありませんが、基本的に毎日入浴可能です。入浴をあまり好まれない方には様々な時間帯で声掛けやタイミングを工夫。午前の入浴時間に限らず、散歩や庭仕事後に汗をかいたからとシャワーをお使いになる方もおられます。「今日は気が乗らないから、明日」「じゃあ、明日ね」とのやり取りもしばしば聞かれます。	入浴は、原則3日に一度、午前中に実施しているが、希望があれば頻回入浴やシャワー浴にも対応している。浴槽にためた湯は毎日交換している。清掃は早番の職員が行っている。季節のしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。入浴を好まない利用者には、時間を変えたりタイミングを見て声掛けしている。ヒートショック対策として、浴室暖房の設備があり、更衣室には、暖房器具を設置している。現在、同性介助を希望する利用者はいない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立を促されるだけでは辛い。老いの坂を下るにつれ、他者に心安く身を任せる関係も大切です。ゴロゴロしたい時はお昼寝等で身も心もリフレッシュし、元気を回復。また安眠のため、時間の見当をつけやすくする支援、規則正しい食事の励行、散歩や外気浴で日の光を浴びることでメラトニン産生を促す援助に取り組む。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たな処方になされた場合、薬の目的や用法・用量を「介護日誌」「申し送りノート」を通じて共有し、副作用などの詳細な情報については、「お薬の説明」により把握しています。また、必要な服薬の支援と内服後の変化の把握、主治医への報告などを行います。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理やお掃除、洗濯…。基礎となる生活参加は皆さんの力に応じて。また庭仕事や寛ぎの朝のコーヒーも日々のささやかな楽しみ。普段の暮らしを大切にする一方で、遠足等の外出やホーム内での行事といった「ハレ」の日を適宜設けています。また、野菜苗植えや収穫、季節の地域行事も楽しみごとの一つ。ご家族の持参された嗜好品を召し上がって頂く支援も。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気晴らしに買い物へ。ドライブや大切な方のお墓参等々、他に遠足やお花見などへも。近隣の方々のご協力により、どんど焼きや神社の例大祭、運動会など地域行事へのお出掛けも暮らしのリズムとなっています。現在はコロナ禍のため休止中ですが、日々のお散歩は引き続き積極的にお出掛け頂いています。	日々の生活の一部として、各フロアの利用者を2名ずつお誘いし、20～30分程、積極的に散歩している。散歩に出られない方は、庭で外気浴をしたり、花や野菜の手入れをしている。近々、利用者と職員が合同で、菜園での「芋堀り」を行う予定である。非常口に近所の猫が来るので、猫の餌やりを楽しんでいる。地域行事の「例大祭」と「どんど焼き」には、利用者3名ずつが参加した。洋服購入のための外出を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社会生活上の重要なコミュニケーションの一つと考えます。物品やサービスの購入の援助のほか、支払いといった行為自体も大切にしています。また金銭の所持がお気持ちの安心と自由につながる方には、ご家族と相談の上、お持ち頂きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族をはじめご親戚、ご友人からのお電話を歓迎しています。お電話の際は、子機をお持ちしますので、気兼ねなく居室などでお話し頂くことができます。また、可能な方には頂いたお手紙のお返事を書いて頂くよう支援し、投函も致します。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々の入居者さんのADLに応じ、動きやすさ、便利さ、安全性など、暮しの中で家具の配置や必要な物品の見直しを行う事で、心地よい共有空間をアップデート。また日々の家事仕事が常に身近にあり、さらに窓からは季節の花や作物が望め、共用部に飾られる正月の鏡餅や七夕飾りなど暮らしの風物、季節の草花、そして庭の畑でとれる野菜や、ゆず湯、菖蒲湯も季節感や生活感に貢献しています。	リビングは日当たりが良く、窓からは、のどかな風景が広がり、落ち着いた雰囲気である。利用者が活けた庭の花をテーブルに飾っている。皆で協力して制作した絵や塗り絵・版画等を飾っている。大掃除や季節行事の飾り付けの際には、利用者も協力している。広い廊下に観葉植物を置いたり、階段の踊り場や通路脇にはベンチを配置して、居心地よい空間を作っている。職員は、共用空間の温湿度の設定、換気の調整をしている。手すりの消毒等も行い清潔を保持している。冬には加湿器を置き、タオルや洗濯物を干して、湿度管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには皆で囲む食卓の他に、少し離れてソファがあります。また、エレベータ横の空間も、何となく集団から離れて一人の静かな時間を楽しんだり、親密な方との語らいの場となっています。夕食後に気の置けない仲間の部屋で昔話に興じることも。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度あやめ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご生活歴と合わせ、どのような物品に愛着を持っておられるかを理解させて頂き、安全性など検討した上で、極力、身近にあるだけでご安心いただけるような使い慣れた物品をお持ち頂くようにしています。	居室には空調・照明器具、収納が設備されている。利用者はカーテンやベッドの他、使い慣れた家具や備品を持ち込んでいる。家具の配置等は入所時にチェックしている。できる方は、自身で居室管理を行なっている。居室の清掃、備品や消耗品の補充は、職員が行っている。居室の入口には分かりやすい名札を掲げ、救護区分も色分けで明示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと風呂は、扉のデザインは異なるものの、同材質のため表示で区別し自立につながる。階段も滑り止めをつけて段差を明確化。車椅子のすれ違いも可能なゆったりした廊下も自立支援に一役買う。食器拭き後、水切りかごの水を捨てたり、猫を眺められるよう1階の非常口は開放。車椅子や背の低い方でも洗濯物干しがしやすいよう布団干しスタンドを使用しています。		

事業所名	グループホーム ソフィアいずみ
ユニット名	せせらぎ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己実現と社会的つながりを重視した理念を示す。また、「ソフィアいずみ・ケア・プライオリティ」を作成し、介護の優先順位として①安全②信頼③いまの入居者の世界④私も楽しい⑤効率——の諸要素と優先度を共有する。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昔ながらのコミュニティが生きた地域に立地。日本人が大切にしてきた習俗・習慣が暮らしに引き継がれ、お祭りや体育祭、どんど焼き等行事への参加、散歩の折などの交流等を通じ、つながりを深める。令和2年より地域・自治会の行事等はコロナ禍のため中止。R5年1月はどんど焼きが実施され、入居者代表2名が参加。4月の自治会総会には管理者参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム通信（自治会回覧）を通じた健康情報の提供、過去に横浜市認知症対応型サービス事業開設者研修、認知症介護実践研修、横浜市認知症特化型生活・介護支援サポーター養成事業の実習受け入れ協力。また、運営推進会議や家族会時など折に触れ近隣、ご家族へ認知症の関りを啓蒙。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際等へのご意見に加え、自治会より地域と施設の積極的なつながり提案を頂く。会議では行事や地元情報のほか、地域との多様な関りのための助言も。又地域の方々の認知症のご家族への関わりやコミュニティとお付き合いの中に、ケアの向上のモデルを見出す（作業はできなくても朝畑に出て近隣の方に挨拶するだけでも表情が輝いた 等）。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	泉区認知症高齢者グループホーム連絡会で情報交換・交流。運営推進会議への区担当者の出席を通じ（令和2年度～書面開催）、事業所や介護現場の実情を伝え、助言やご意見を頂く。また消防訓練に当たっては消防・予防課より指導・支援を頂く。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時のオリエンテーション及び年に2度の施設内研修において、拘束の弊害や「切迫・非代替・一時」の3原則の周知を図る。H20年9月より玄関の施錠を開始。翌21年3月の家族会で報告。見守り容易な勝手口（非常口）は自由な出入り継続。また、ご自身で開錠可能な方は玄関の出入りも自由。お好きな時に庭仕事や花摘みへ。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年4/1～7/15の間で高齢者虐待防止研修を実施。虐待の定義、通報義務、不適切なケアと虐待の関係などを学ぶ。また、年に一度の虐待防止一斉点検で課題抽出に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和4年度は6月に成年後見制度の基礎に関する内部研修を実施。またケアマネの研修、自治体の広報活動等を通じ、学ぶ機会を持つ。必要に応じ行政窓口等と相談、調整などを行う。現在、ご親族以外の方が成年後見をお務め頂いている入居者はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約に当たっては、理解や解釈の困難な語句、事柄の平易な説明を心掛け、極力疑問や不安のないように努めています。また報酬改定時など、理由、内容を記したご案内文章を皆様にお送りしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年度末に家族会とアンケート調査を実施する。運営やケア、看取り等に関してのご意見・ご要望を頂く。R5年もコロナ禍のため前年に続きアンケート調査のみを実施。アンケートの集計結果は5月にごご家族へ郵送し、また施設内で閲覧可能な状態として公表する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議及び目安ノートで職員の意見、提案の聴取、検討に加え、運営や業務などに関する職員アンケート及び個別面談を毎年5～6月に実施。また、令和元年度より法人の方針発表会を開催。法人全体として経営・運営方針や理念の共有、職員の意見発表も行える場を設けた。令和2年度以降、コロナ禍のため中止を継続。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意欲と前向きな精神態度に留意し、自主性を尊重した配慮、対応に努める。また事務長管理者会議、理事会を通じ、職員の給与や勤務状況、職場環境等を把握して検討し、改善に努めている。なお令和5年1月に法人内の全事業所で“組織の健康診断”を実施。労働負荷、処遇、仕事の裁量性など7分野について職員の就業環境を精査する。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業規則の中に「人格、知識並びに技能を高めるため、業務の許す限り研修を行うものとする」と定める。代表者は資格取得やスキルアップを奨励し、研修会などへ参加しやすい環境づくりに注力。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本認知症グループホーム協会（GH協）、横浜高齢者GH連絡会、泉区認知症高齢者GH連絡会のほか、防災については泉区社会福祉施設等防災連絡協議会に加入。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見当識の揺らぎに加え、記憶を介して周囲の環境とつながることが困難な認知症の方は、不安が支配的な情動と言われます。また、環境変化に弱く、ご入居時は大きなストレスにさらされます。このため、事前のアセスメント調査で出来る限りお心の中の理解に努め、ご入居後も言動を注視しながら対応して参ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ずはご家族が一番苦慮されている点をお尋ねし、理解・共有した上で入居のお話を進めるようにしています。ご家族の思いを真摯に受け止めながら、事業所と一緒にご本人を真ん中に置いた望ましい関係を模索してまいります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際など、望む暮らしの姿やご本人のご状態、ご家族のご意向や介護力などを勘察し、他に適したサービスがあればご提案、ご紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材切り、盛りつけ、食器洗い・拭き、洗濯物干し・たたみ等々。家事などの生活参加を通じ、ご本人の持てる力と生き生きとした心の動きを極力引き出すことで、一方的な関係に陥らず、暮らしをともに作っていく間柄を築きます。また、職場は人間形成の場でもあり、入居者に支えられつつ職員も共棲していることを自覚することがGHケアの要諦と考えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間や場所とのつながり感が薄れ、記憶を介して環境とつながることが困難になくなった認知症の方にとって、長年暮らしを共にしてきたご家族との絆は最大のつながりです。ご家族は最も重要なケアの戦力と位置付けています。また、外出行事の同行介助や雑巾縫い、庭の除草などのボランティア参加をお願いさせていただきました（コロナ禍のため休止）。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚とのお付き合い、身内の法要やお祝い事などに継続参加できるよう支援（同行者、訪問者へ関りのポイント説明や、散歩による筋力維持）しています。馴染みの方のご訪問を職員一同歓迎しています。一方、時間や場所とのつながり感が希薄な方には、初詣や夏祭り等の年中行事やしきたりを重視した暮らしを提供することで、馴染みの場を再現しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いくつになっても人間関係を築き、育てる意欲と力は生きがいに直結していると認識。互いに助け合いながらの家事などの協働、相互理解や親交を深めるため、思いを押し量って言葉を補うなどの人間関係の橋渡しなどに努めています。ホスピタリティを職員だけが独占するのではなく、自然なコミュニティのあるべき姿として、入居者相互の思いやりを支援。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えでは次施設へケアのポイント等を伝達。在宅復帰者にはホームをお出かけ先の一つとして提案。年賀状のやり取りなどを通じ、退居者・入居者双方の社会性維持を図る。以前他界された入居者のミニ法要を営むことも。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	まずは入居時のアセスメント調査や日々の観察・記録を通じ思いの把握に努めます。中でも「働き者でしっかり者の母」など、その方の構成する世界の中核にある自己イメージの検討は丁寧に実施。また病期に応じご本人のニーズも変化しますが、不安が支配的な情動となりやすい事を念頭に“つながり”を切り口とした本人本位の関わりを大切にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご生活歴、サービスに至るまでの経過については、可能な限り詳細に把握させて頂くようにしています。ご入居後もご家族の皆様との親密な交流を通じ、折に触れご本人への理解や共感、意欲の向上につながる手掛かり情報の把握を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や健康状態、お気持ち等を観察・記録して申し送ることで、日々の関わりをブラッシュアップ。3カ月に一度のケース会議では長期的に再評価し、「お洗濯物は畳めても仕分けは困難」「途中で拭いた食器とこれからの物の区別が混乱」など、現状の能力を評価し、何が不安につながるか、逆にどんな行為や関わりに心が満たされたかを検討。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症の病期（ステージ）に応じ、その時々のご本人のご意向や思い、ご家族のお考えやご生活歴などの情報、医師・看護師の指導や助言、認知症の方の特性などを踏まえながら、その時々のご状態に即した入居者主体のケアプラン作成に注力。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の詳細なご様子は「ケース記録」に記入し、気づきやケアの新たなアプローチ、実践の結果などの特記事項を「介護日誌」や「申し送りノート」に記載して伝達。情報を共有して日々の実践やケアプランの見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のクリニック看護師による日常のきめ細かい健康管理、医療ニーズが発生した際のスムーズで適切な対応等により、可能な限り入院等の環境の変化を避け、ホームでの生活を維持して頂ける体制をとる。他に入退院時の送迎や情報提供、通院介助、買い物同行などの外出支援も。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、運動会や夏祭りなど自治会行事への積極参加、泉消防署との消防訓練を通じた消防管理上の基礎知識や技術習得のための取り組みなど行う。基本的にコロナ禍のためホーム行事、自治会活動とも自粛継続も令和5年1月には地域の神社のどんど焼きに参加。地域行事は、希薄化した見当識、他者とのつながり感を補完する上で非常に重要。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本としますが、ご同意頂ける場合、より円滑かつ迅速な医療対応のため、ホームの協力医療機関であるソフィア横浜クリニックの医師をかかりつけ医として頂いています。同様に同意に基づき同医師による訪問診療を受けて頂いています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内のクリニック看護師は定期訪問や介護職員との情報交換により、単に健康状態を把握しているだけでなく、相談に乗る（訴えの傾聴）等を通じて入居者と緊密な関係を築き、さらに日々の暮らしぶりを知ることで、よりきめ細かな健康管理につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平常時のバイタルサイン、日常生活動作能力やBPSDのご状態、ホームで可能な医療活用等の情報を提供（文書の場合も）し、経過や入院中のご状態について話し合うことで、ご本人が混乱なく病院で過せ早期退院が可能になるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針や支援のあり方は、段階毎にご意向を確認。また毎年ご家族アンケートで看取りについて、その時のお考えをお尋ねしている。終末期には事業所単体ではなく、法人内の診療所や老健を含めた総合力で対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	秋の消防訓練時などに蘇生法の訓練を行うほか、応急手当や確実な初期対応を行うため、救急時のチェック表を活用。また、採用時に緊急時対応マニュアルや救急法、救急時チェックなどを指導。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H22年より近隣の方に消防訓練（年2回）へご参加頂く。また地域の社会福祉施設の防災連絡協議会に参加。コンサルの指導で大地震対応マニュアル整備。H27年の水防法改正で当施設はH30年1月より「想定し得る最大規模の降雨」の際の洪水浸水対象区域に敷地の一部が入り、災害対策計画を作成。R5年も4月水害対策訓練、5月地域連携消防訓練（夜間想定）を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	活き活きと心を動かすため、自尊心や人格の尊重はケアの前提と考えます。何を大事にして来られたかを理解し、“今の入居者の世界”を大切にして、細やかな思いやりにつなげます。介護する側・される側でなく、平等な共棲関係が基本。また職員採用時に個人情報保護に関する指導、誓約を行い、毎年研修を実施しています。令和5年度は6月に研修実施。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解しやすい説明や、気持ちが固まるまで待つなどの対応を重視し、自己決定の背景となる様々な機会提供にも注力。例え発語が失われても、頷いて頂いたり表情や仕草などから意向を読み取ることの大切さを深く認識しています。さらに、入居者の動きを時間をかけて読み解き、何をしたいかしっかりと意図を見極めることも思いの表出や自己決定の支援の一つと考えます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由で制約のない暮らしを通じ、日々のささやかな喜びや意欲の芽を育てることが、長い目で見た時に健康でその人らしい暮らしの実現につながると考えます。当ホームのケアの優先順位においても①安全②信頼に次ぐ高い優先度に「今の入居者の世界」を位置付けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どこにどんな衣類がしまっているか、つい忘れがちですが、必要な方には職員と一緒にその人らしい装いを支援します。また隔月で馴染みの美容師が訪問。お出掛け支援や地域交流など、積極的な他者と関りも、お気持ちの上でのお洒落支援と考えます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養価や嗜好を基に週6日は栄養士がメニュー作成。ただし月曜のメニューは皆で考えます（「明日何を食べたい？」）。調理・盛り付け・後片付けは能力に応じて皆で。ご自身の判断で調理を進められる方もいれば、少し手順を示唆されれば問題ない方、切ったり剥いたり食器を拭いたり部分的な作業ならお手の物な方も居られます。職員も食卓を囲みます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスのとれたメニューを作成し、食事毎に主食と副食に分けて摂取量を把握。必要に応じ代替の食事形態（粥食や軟菜など）・メニューの提供等を実施。水分摂取の少ない方は個別の摂取表に基づき対応。またお腹が空かせて頂くため、心身の活動性の高い暮らしに注力。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した方には歯磨き習慣の維持のためのお声掛けを、必要な方には仕上げ磨きのお手伝いやブラッシング介助を、義歯の方も夜間のお預かり、洗浄・殺菌など、お一人おひとりの力に応じた援助を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	原因が尿意の希薄化なのか、トイレまで間に合わない等の動作の制限によるものなのか、お一人おひとり課題を抽出して支えていきます。また、必要な方には水分摂取、排泄のリズムを把握するための表を活用します。安易にオムツを使わず、長年身に着け安心できる布パンツの装着感、変わらぬ自分を大切にしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事メニュー、排便間隔、生活リズムの乱れの有無、食事摂取の量や内容、水分摂取量、体調や運動量、薬の副作用など排便に影響を及ぼす要因を個別に検討。また日々の散歩、家事などの生活参加を励行し、朝食後のトイレを日課として頂く提案など行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	人員の制約から全ての方が毎日入れる訳ではありませんが、基本的に毎日入浴可能です。入浴をあまり好まれない方には様々な時間帯で声掛けやタイミングを工夫。午前の入浴時間に限らず、散歩や庭仕事後に汗をかいたからとシャワーをお使いになる方もおられます。「今日は気が乗らないから、明日」「じゃあ、明日ね」とのやり取りもしばしば聞かれます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立を促されるだけでは辛い。老いの坂を下るにつれ、他者に心安く身を任せる関係も大切です。ゴロゴロしたい時はお昼寝等で身も心もリフレッシュし、元気を回復。また安眠のため、時間の見当をつけやすくする支援、規則正しい食事の励行、散歩や外気浴で日の光を浴びることでメラトニン産生を促す援助に取り組む。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たな処方になされた場合、薬の目的や用法・用量を「介護日誌」「申し送りノート」を通じて共有し、副作用などの詳細な情報については、「お薬の説明」により把握しています。また、必要な服薬の支援と内服後の変化の把握、主治医への報告などを行います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理やお掃除、洗濯…。基礎となる生活参加は皆さんの力に応じて。また庭仕事や寛ぎの朝のコーヒーも日々のささやかな楽しみ。普段の暮らしを大切にする一方で、遠足等の外出やホーム内での行事といった「ハレ」の日を適宜設けています。また、野菜苗植えや収穫、季節の地域行事も楽しみごとの一つ。ご家族の持参された嗜好品を召し上がって頂く支援も。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気晴らしに買い物へ。ドライブや大切な方のお墓参等々、他に遠足やお花見などへも。近隣の方々のご協力により、どんど焼きや神社の例大祭、運動会など地域行事へのお出掛けも暮らしのリズムとなっています。現在はコロナ禍のため休止中ですが、日々のお散歩は引き続き積極的にお出掛け頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社会生活上の重要なコミュニケーションの一つと考えます。物品やサービスの購入の援助のほか、支払いといった行為自体も大切にしています。また金銭の所持がお気持ちの安心と自由につながる方には、ご家族と相談の上、お持ち頂きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族をはじめご親戚、ご友人からのお電話を歓迎しています。お電話の際は、子機をお持ちしますので、気兼ねなく居室などでお話し頂くことができます。また、可能な方には頂いたお手紙のお返事を書いて頂くよう支援し、投函も致します。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々の入居者さんのADLに応じ、動きやすさ、便利さ、安全性など、暮らしの中で家具の配置や必要な物品の見直しを行う事で、心地よい共有空間をアップデート。また日々の家事仕事が常に身近にあり、さらに窓からは季節の花や作物が望め、共用部に飾られる正月の鏡餅や七夕飾りなど暮らしの風物、季節の草花、そして庭の畑でとれる野菜や、ゆず湯、菖蒲湯も季節感や生活感に貢献しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには皆で囲む食卓の他に、少し離れてソファがあります。また、エレベータ横の空間も、何となく集団から離れて一人の静かな時間を楽しんだり、親密な方との語らいの場となっています。夕食後に気の置けない仲間の部屋で昔話に興じることも。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご生活歴と合わせ、どのような物品に愛着を持っておられるかを理解させて頂き、安全性など検討した上で、極力、身近にあるだけでご安心いただけるような使い慣れた物品をお持込み頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (R5年度せせらぎ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと風呂は、扉のデザインは異なるものの、同材質のため表示で区別し自立につながる。階段も滑り止めをつけて段差を明確化。車椅子のすれ違いも可能なゆったりした廊下も自立支援に一役買う。食器拭き後、水切りかごの水を捨てたり、猫を眺められるよう1階の非常口は開放。車椅子や背の低い方でも洗濯物干しがしやすいよう布団干しスタンドを使用しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ソフィアいずみ

作成日 令和5年12月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	職員の育成において内部研修は活発に実施しているものの、この間のコロナ禍もあって外部研修が受講できておらず、偏りなく最新の知識・技能を習得する体制に乏しい	見識を深めるため、右の期間内に3回以上の外部研修派遣の実施	地域の感染状況を見極め、オンライン参加など時々の状況に応じた参加方法の検討、人員体制の強化	作成日以降、令和6年度内
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。